

密 山 便 り

※ 大 石 義 郎

會員の皆様、御健勝ですか、私は内地より新京に来て此の六月迄の約一年間、北支轉出の長友江守保平君の後を襲つて不敏乍ら土木研究會の常任幹事を仰せ付かつたのでしたが在任中は洵に申譯無い程働き甲斐も無く過した事を此の機会に衷心よりお詫び申上ます。後任の米田正文君は敏腕練達の士必ずや愚生に依る不成績を取り戻し本會をして彌ます隆盛にして下さる事を信じて疑ひません。

本日は二週間に亘る連日の梅雨霪り無く晴れて、清々しい秋の陽が此處北邊の地に燦々と輝いてゐます、誰れを見てもホツとした助はれた顔付きをしてゐます、わけても緊急な大工事を控えてゐる私共にはどんなに難有いか分りません、願くは之れが續いて呉ればよいですが。

密山便りをもつと早く皆様にお送りし度いと念願してゐましたが何分にも多忙でしたので氣に懸けては居ましたが、今日迄延引しまして申譯ありません、「建設」の編輯員諸兄にも御迷惑を懸けた事をお詫びします、その更り今日は一つゆつくり種々な事を書いて此處東安に居ります「建設」の會員の生活振りを御紹介致せう。

× × × ×

扱て御承知の如く北邊振興事業に伴つて本年六月一日を以て東安、北安の兩省が新に生れましたが、吾が東安省は虎林、密山、饒河、寶清

林口の五縣を合せ、面積四萬七百平方杆、人口三十二萬、省境の半分はソ領との國境線であります、即ち東部は大部分烏蘇里河にて、南部は興凱湖上並に山嶺に於て國境となり、ソ滿國境に於て西比利亞鐵道と最も接近してゐるのが東安省の虎頭である事は戰略上何を意味するか門外漢の私共にも此の土地の重要性が想像出來ます。宜なるかな省長に御影池辰雄氏、次長に枝部與平氏、警務廳長に原野是男氏、開拓廳長に田中孫平氏と云ふ各一流の人材を配し、其の他各機關とも多士齊々であります。

東安省公署の開廳と共に省公署の所在地密山は東安と改稱されました、東安は大體に於て省城の中央に位し、新京より汽車による時は最も好都合に行つて約二十六時間を要します、航空による時は四時間足らずですが目下或る事情の爲めに中止の状態ですから長い退屈な汽車に揺られて行くより外ありません。

扱て密山便りと云ふよりは東安便りと云つた方がよいのかも知れません、と云ふのは前にも述べました様に東安省の新設と共に密山が東安と改められ、夫れより約十二杆（途中穆稜河を渡る）の地點に在る舊密山を密山と改稱しました、従て私共が居住するそして交通部密山土木建設處の在る處は東安でありますから東安便りがほんとうでせう、然し何と云つても電燈が約一ヶ月許り前に點いた程の寒村僻地ですから、

その僻地らしい気持ちを表はすには東安よりも密山の方がより剴切です、今年の六月北邊振興事業の起興に伴ひ生れました交通部の吾が土木建設處も其の名稱を定める時に交通部密山土木建設處にすべきか交通部東安土木建設處にすべきかの二論があつたのですが密山と云ふ名稱が段々と忘れられて行くであらうのが何としても愛惜に堪えない気がし、夫れに密山は北邊邊陲の地たる事を想はしめるに相應しい名稱でもあり、旁々東安の字を採ると省の下に在る官廳の様に聞えて紛らはしい気がしたので私は密山説を主張した一人なのでした、どうも吾が滿洲では古來から在る地名を勝手に變更する癖があるのは考へものではないでせうか、地名には相應の起源があり沿革があつて、大抵は深い意味の籠つたのであり、複雑多種を極める民俗の習慣制度、發達史等を研究するよすがとしても洵に重要なものと思はれますのに、夫れを殆んど深い考慮も拂はずに氣紛れな便宜主義的な動機からどしどし變改して行くのは實に由々しい問題と思はれます、北海道に遊んだ者は其の地名の難しい讀み方に最初は誰れしも當惑せざるを得ませんが漸次夫れに慣れ親しんで來るに従て寔に北海道らしい快い感じを懷き、其の名の有つ意味を聽くに及んで郷土色豊かな其の土地に強い愛着をさえ覺えます、東安省の鐵道の末端東部國境烏蘇里河に臨む虎林と云つた街は虎頭と、又其の虎頭と東安との中程に位する黒咀子(安樂鎮とも云ふ)は虎林と最近改名したなどは旅行者をして頗る當惑せしめてゐます、此れ等は惡例の方でせう、大分筆がとんでもない方面に脱線して仕舞つて申譯がありません、愈々本論に入りませう。

× × × ×

最初に先づ私共の仕事の話を致し度いのですが御承知の通り特殊地域で防諜が殊に嚴しいので御披露や吹聴が出来ないのが寔に以て遺憾至極であります、何とかして其の外貌でもお報らせし得たならばと大分表現方法を工夫して見ましたが如何しても駄目、只本年度は先刻申上た様に土木建設處と云ふ大きな機構の役所を特に此地方に新設した事、そして最近緊急それも生やさしい緊急でなく超努級的な緊急の事業が追加され、九、十の兩月に相當な工事量を是が非でも完遂せしめねばならない事情に在る事、從て豫算も驚く勿れ他の四土木建設處を一括にした程の龐大な額に達し、最近交通本部その他より多數の應援者を得て今や全處員夜を日に繼いでの大重な活動に入つた事、新に募集した一萬二千名の苦力が陸續と毎日の様に到着しつゝある事、至急に東京で募集した運轉手が本日を以て豫定の百名全部が到着した事等を申上ぐれば如何に其の仕事が大かりのものであるか緊急的なものである大體御想像がつくと思ひます、兎に角未だ曾て無つた様なので緊張の上にも緊張し生活上の不自由や福祉上の不満等誰れも彼れも不平不満を口にすると雖も無位位ひです、要するに此頃の吾等の生活は働いて食つて寝るの連続です。

× × × ×

東安省で一番大きな街は平陽鎮です、戸數四千八百、人口四萬四千と云ひますから相當なものです、吾が東安街は戸數九百五十、人口六千にも満たない寒村で省内八番目の街です、勿論水道も無く電燈が點いたのが先程も申上げた様に約一ヶ月前でした、旅館は三軒程ありますが

何れも極めて貧弱で最近では旅行者が非常に多く何時も満員、少く共三日か四日前に申込んで置か無いと泊れません、旅館の方はこう云ふ時こそ儲け時と慾心を出しまして永逗留を嫌ひます許りか、豫約してある室を平気で破約して當日になつてお客を案内して行くと無つたりして大へん面目を失しお客にも迷惑を懸ける事がよくあります、どうも慾の爲めにはかゝる不信行爲を平気でやる日本人が相當居りますが濟度すべからざる輩で困つた者です、そうかと云つてもう行つてやらないと其の時は怒つてもどうにもならず説方なく又其の次にも頼みに行かざるを得ない状態で全く何方がお客か分らない様な仕末です、來年邊りは東安にもヤマトホテルがそれも牡丹江のよりも規模の大きなのが出来るそうですから今暫の辛棒と斷念するより外ありません。料理屋は之れも旅館と同程度のお粗末なのが三軒程あります、其の内でも上等の部に屬するMと云ふ店でも、雨天の日に行く時には豫め電話を掛けて雨の洩らない室を頼んで置かないと行つて混雜して居る時は、「お氣の毒ですけども此室で我慢して戴けないでせうか」と通された室は八疊敷の畳が二、三枚外されて汚い床板が見え、雨洩り受けの洗面器が置いてあつたりして濕つばい空氣を吸ひ乍ら食はざるを得ないと云ふ洵に情ない状態です、そして祿なものとは無く、サービスも下手、然も途方もない高價です、全く取り柄がありません。物の値の高いのは料理屋許りではなく一般にそうですが、その内でも料理の暗相場は東安の一つの名物でせう。魚類は穆稜河で獲れるものよりは遠く羅津又牡丹江經由のものが多く、私などは恐くて絶対に生魚には箸をつけない事にして

ゐます、牛肉は注文しても有る日が少く、之れも牡丹江方面より輸入してゐる始末です、豚は街にうようよしてゐますので時々ありつけますが鶏肉は仲々貴重品です、従てかしわのすき焼等は贅澤の部類で豪遊に屬します、省長の言を藉りて言えばすき焼する毎に「東安の貴重な資源が又一つ失くなつた」と云ふ處です、豚で想ひ出しましたが、吾れ吾れの役所の前の路を一つ距てた處が屠殺場です、屠殺場と云ひますと大袈裟ですが極簡単なもので、台一つ、棒一つ大刀一つで夜店の商人が西瓜を割る様に行人退視の中で極めて無雜作に、縛る、押える、打つ、裂くで今迄そこの泥濘をづらづら行つて歩いてゐた奴が瞬時にして豚肉に化けて仕舞ひます、私共の役所の窓から夏など見まいとしても見える此の残忍な光景、そして聞える豚の斷末魔の悲聲、之れには氣の弱い女事務員等を其の度毎に震えさせたものですが此項は漸く皆慣れて來た様です、然し何と云ふても血生臭い嘔吐を催す様な臭氣がそれも丁度晝食をしてゐる時にブーンと襲つて來るのには閉口で途中で箸を措く事も再三ではありません。

扱て料理屋は前述の様なわけで一般の役人や安月給取りには向きません、其處を狙つて出來たのが、〇と云ふおでん屋と、Aと稱ぶ豚かつ屋です、外にお汁粉屋や安飯屋等もあるやうですが何れも大入満員、元氣旺盛な若者達の胃の腑を満足させて呉れて居ます、〇とAもうら若い姉妹が云ひ合はした様に二人宛揃つて店に出て大ひに愛嬌を振り撒いてサービスしてゐますので單身赴任の者達にとつては食慾の満足以外に云ふに云はれぬ慰安にもなります、住宅難が極度に達してゐる爲めと、水質の不良と、醫者

殊に小兒科醫の皆無な處えもつて來て風土病に罹り易い事等が主なる原因で家族を目下伴れて來得ない事情に在るので單身赴任の若者にとつて〇もAも東安街のオアシスである事は之は全く自然の現象でせう、かゝる状況の處にはかゝる種類の店舗をどしどし殖やす様にして貰ひ度いものですが當局は仲々慎重な態度を持して續々とある開店希望者を抑えて許可は厳しい様です、私共には分らない深い事情があつての方針かも知れませんが考慮の要ある問題と思ひます、と云ふのは他愛の無いかゝる種類のものを澤山許可すれば自然と他の感心しない處で遊ぶ機會も少くなつて風紀上、仕事の態率上にも好影響を齎すであらう事は想像に難くないのでありまして當局としては寧ろ積極的に出て開店を斡旋奨励すべきではないかとさえ考へてゐる次第です、私としては處員の此の方面に於ける責任者の立場から眞摯に考へてゐる處で何れ同じ憚みを持つ省公署の方面とも相談して見る積りで居ります。

當地方が不健康地である事は衆知の事實でありますが何處の役所も會社も病人が相當に多い様です、胸の病氣は四季を問はず相當に多く、滿洲では治療困難で内地に歸省して養生してゐるものが現在で九名にも達して居ります、夏は赤痢やチブスで布團を接して起臥してゐる集合住居に之が発生し大ひに弱りました、それと云ふのも住宅難から狭い處に多人數同居するための不衛生と過勞と榮養不良とが原因を爲して居ります、尙獨身者よりも家族と別居し單身赴任して居る者に罹病率が多い事は注目に價すべき現象です、之れは一旦家庭を持つた者は獨身時代の時の様な簡単な生活に再び仲々戻り得ない

爲めでせう、即ち抵抗力が、頑張る力が遙かに落ちてゐます、家族と同居して居れば比較的榮養が携れ慰安が得られ病氣の際の手當看護も割合に行届く事を考へますと何としても一日も速かに家族と同居し得る様にしてやらねばならぬと考へて居ります、人間として不自然な生活様態はそんなに永く續く可きものでありません、必ずや無理を生じる事は亘明の理で、男々しそろに見えるがその實似而非な瘦我慢的緊張には際限があります。

先づ何はさて措いても此の際住居です、ロシア人は先づ設備萬端整つた堂々たる住宅を建設してから其の町に乗り込んで行くそでヘルピンが其の一例だと聞いて居ますが學ぶべき事だと思ひます、急激なる發展途上に在る吾が滿洲國としてはロシア人の様な眞似は出來得ないにしても今日滿洲で見る各地の有様、殊に新京、奉天、牡丹江そして此の東安に於ける状態に余りにも常識を外れた遣り方ではないかと當局に對して義憤を感じてゐるのは豈私一人ではありませんまい、「昔衣食足つて禮節を知ると云つた聖者がりましたが、其の時代に於ては住は今日滿洲で吾れ吾れが經驗してゐる程深刻なものでは無つたので遂ひ附け落したのかも知れませんが、今日では衣食住足つてと訂正しなければならぬ時代になつて來ました、衣食足つて云々といつた今は地下に居る聖者が現代の有様を見て失策つたわいと自分の不明に微苦笑してゐる事とせう」と云ふ様な意味の新聞記事を読んだ事がありますが洵に噎えない身につまされる時代悲劇です。

東安に於ては省長御影池氏は皆と同様單身赴任で三間の家に役所の者を置いて三人で同居し

て居られますが寔にお氣の毒な生活です、省長が斯くの如くですから他は推して知るべして廳長級がバラツクの集合住宅の六疊一間に、科長級がそれに二、三人宛と云つた處です、吾が建設處員も夫れに劣らない状態で、バラツクの廣間に同居して、一人の占有面積が疊一疊に満たない者廿五人を數えてゐます、中には泊るべき處がないので晝間事務をとつてゐる役所の机を夜が來ると並べ合せて其の上に寝る者約十名ある位で實に氣の毒に堪えませぬ。私などは省長や次長と同じ造りの家に役所の者を二人置いて三人暮しをやつてゐますが、贅澤な部類に屬します、兎に角住宅問題で大分長くなりましたが一番深刻な問題でありますので遂ひ愚痴めいた事が出ます、そんな事は萬々承知でお前等は東安に赴任したのではないかと叱られそうですが、目下房産が建築中の代用官舎も仲々豫定の戸數は今年の冬迄には出來そうにもありません折柄そろそろ冷い風が吹く今日此項は余計に今冬が案ぜられて常に腦裡から離れ得ないのであります。

× × × ×

匪賊の跳梁が此項又活潑になりつゝある事は困つたものです、詳細を此處に述べる自由を持ちませんが工事現場も愈々最盛期になり仕事以外のこんな事に煩はされる然もそれが生命財産に直接影響ある心配などで寔に以て厄介千萬であります、先日或現場へ出張の翌日の夜約〇〇名が苦力小屋を襲ひました、〇〇された苦力もあり通断も隙もあつたものでありません。

其の時の私の出張は〇の〇〇三名と共に穆稜河以南の濕地帯に本年度新に設けやうとしてゐる〇〇道路の豫定線視察に出かけたのでした、

御承知の通り地圖を擴げて御覽になつても分る通り彼の邊一帶は廣漠たる濕地帯で所々點々と小高い台地があり雨季には舊道（最も土地の高い處を選つていてゐる）を歩いて行つても浅い處で膝迄、深い處では臍迄浸して行かなければなりません、尤も雨季には部落相互の連絡が全く絶えて仕舞ふ處も澤山あります、舊道のある處は湯水時には往來が出來ますが大部分は先づ駄目であります、もつとも結氷期は又別問題ですが、吾れ吾れ一行は全部で八名、幸ひ三日目は天候に恵まれ、然も最湯水時期でありましたので滿馬に跨つてお互ひに冗談や輕口を叩きつゝピクニツク氣分で、至つてのんびりと行程を進めて行きましたが愈々最後の日は深濕地に入りますので馬を捨てゝ徒歩で行く事にしました、此時〇〇の二人は他の方面に行くので別れてPと云ふ〇〇一人が吾れ吾れと行を共にする事になりました、前に申しました様に匪情も最近悪い處でしたので出發の朝は一入の緊張感が私共の胸を引き締めました、かゝる日になつて無情にも朝から雨です、北滿の氣温は早や相當低く出發後間もなくして雨水はレインコートを通し上衣を通し、氣持の悪い冷え冷えとした雨水が肌迄通りましたが其の項は未だ一行意氣至つて軒昂愈々廣漠として視界を遮ぎるものも無い大濕地に足を踏み込みました、勿論道はありません五萬分の地圖と〇〇P君持參の怪げな磁石、敢て怪げと云つたのは雨水が雨の中に浸み込んで磁針が硝子蓋に吸着し函を叩くか振らないと針が自由にならないと云ふ代物です、それに相當古物で針の先端に錆が出てゐる洵にもつて頼りない奴で、之れには私も永い今日の道程に於て唯一の頼りの磁石が之れではと聊か消

然たらざるを得ませんでした、到頭此の磁石は途中で硝子蓋を破つてむき出しにして仕舞ひました、斯くして兎にも角にも眞西の方向に一直線に踏み込みました、一時間して後振り返り何キロ進んだかを目測で定めて速度を知ると共に地圖上の位置が分りました——此の目測に就ては取り柄の無い私にしては珍しい特技とする處でして、去年飛行將校數名と某飛行場豫定地の調査に行つた折、皆して目測競争をやつた事があります、勝ち抜きで最後に私と戰場で鍛えてゐるから自信があると云ふY少佐との一騎打ちとなりまして或地點迄の距離を當て較べた事がありました、其の距離は軒以上でしたので百米單位にしてやりました、扱て地圖を出して調べた處小生はピタリと當てゝゐるので流石のY君も兜を脱いで「職掌柄だけある恐れ入つた」と云はれた事がありますがその時は愉快でした、此の日の行進に於ても途中で小生の意見が用ひられてゐたならば後で記しますが過ぎて二時間程も無駄足を踏まずに済んだ事でせう、いや之れは大へんな自慢話になりまして恐縮です——そこで今後此の調子で進むとすれば後何時間歩いてから方向を北西にとれば必ずや豫定の移稜河岸の某地點に着くべしと推定しました、兎に角雨天で最早見えねばならない山の姿も見當らず、其の内に正午頃となりましたが雨を避けるべき樹蔭とて無いので濕地の中に突立つた倣辨當を開け、鐘詰を切りましたが雨は遠慮會釋も無く降り注いで忽ちの内に飯は水漬となる始末、纏て再び歩き出しましたが草を分けつゝ濕地を歩く事それも谷地坊主の中を歩く事は相當疲勞を覺えます、ラツセル役のY技士は吾が役所に於ても相當に此の方の経験家であり健脚を

以て鳴る者ですが午後の三時頃になりますと流石にへたばつて來たらしく時々立ち止つては小手を翳して遠方を遙かに見たり、望遠鏡を取り出しては徐ろに眺め入つたりしてゐます、休む爲めとは知つてゐても後を尾けて行く私も休みたいので決して一度もせかしたりはしませんでした、處がP君は時間も段々晩くなるのに未だに目差す處が皆目見當つかないのに氣をあせらして「己れが先頭になる」と飛びだしてY君に代つてラツセルし始めましたがものの百米も進まぬ内に「駄目だ、苦しい」と云つて歸つて來る始末體軀堂々たる大男も大分應えて來た様です、況んや瘦弱貧弱な私などは決して無理は禁物と一番後から居て行く事に決めました、人の歩いた跡、然も四、五人先を歩いた跡になりますと草が寝て割合に樂なものです、午後四時雨の日の陽足は短く夕暗漸く迫る頃、錆しや北西の雲切れて曇て晴れ間が赤々とし、目差す〇〇の山影が藍色にくつきりと浮び上りました「占めた」の聲は期せずして皆の口から同時に洩れたのです、皆の顔にはこれで助つたと云ふ安堵の色が浮んだのでした、早速地圖を展げて調べますと豫定の進路は大分西方に寄り過ぎてゐるのを発見しました、苦しも此の様な幸運に恵まれる事今一時間も遅かつたならば益々深い濕地に入り込んで例え其の時〇〇の山が見えたにしろ到底其の日の内には〇〇え辿り着けず、雨の降る中を寒さに探え乍ら濕地の中に野宿せなければならなつたのでした、然も此の邊にはつひ最近匪賊を追ひ込んだと云ふ情報さえも入つてゐたので相當物騒な一夜を明かさなければならなかつたでせう、六根清淨のお蔭、幸運なるかなです。こうなると疲れも忘れ一同元氣にな

りました現金なもので此の分ならば晚くとも下りの列車には間に合ふから〇〇に泊つて一杯やらう等と云ふ野心さえ私の胸に浮んで來るのでした、烽火や旗も見出し得ませんでした。がともかく穆稜河のとある岸に辿り着けました、後から考えて見ると羊腸と曲りくねつて流れる河岸で烽火を上げろ、旗を樹てると命じた處でそれを発見するは容易な事ではありません、聞けば朝から雨が余りひどいので多分今日は出發を見合はしたらうと考へて、それを實行しなかつたんだそうで、寧ろこの様な日には家に引込でゐた彼等の方が余程賢明でした。

扱て河岸には着いたものゝ目差す唯一の渡場が上流に在るか下流に在るか誰れも知つた者としてありません、此處で又將と參つて仕舞ひました、手分けして探すには余りに夜の帳が迫つて居ります、思ひ切つて泳ぎ渡るには余りに寒くそして疲れて居ります、こうなつたらば、いつそのこと感で上流か下流か定めて仕舞ふと、胸に亂暴な相談が纏りもした、「大石さんどう思ふ？僕はこつちだ」とP君が先づ下流を指差しました、私の気持ちも流れに溯つて上流に行くのは疲れ切つてゐる今の氣分にそぐわない氣がして、「僕もそう思ふ」とこれで一決、一行は私を後にしてどんどん進んで行きますと、先頭のY君が急に立ち止つて一行の前進を制しました、見ると遙か彼方の河岸と覺しき處に一軒家が見えます、Y君は望遠鏡を取り出して眺め乍ら「今ドヤドヤと四、五人草叢の中に隠れた」若しやすふと匪賊かも知れない、様子を見るから待つて下さい」と暫く見てゐましたが分らない、出れば出る、P君流石に〇〇だけあつて、「行かう、行かう、行つて見やう」とはや歩

き出しました、私は初めての經驗、こんな處で死んでなるものかと早や手は腰の拳銃を取り出し握り締めました、處がお辱し乍ら之れを打つた經驗が未だ曾て無い、安全辦の外し方さえ分らないと云ふ始末、急に心細さを感じました、Y君も眼鏡を收めて拳銃をまさくつてゐるらしく、P君も握つてゐるらしい、まあ先へ行く二人がいざとなつたら片附けて呉れるだらう、彼等の彈が切れたらばすばやく自分のを貸してやらうと決心し、後から相當距離を保つて尾いて行きました、此の時の不安さは後で思ひ出しても可笑しくなる位ひです、未だ未だ精神修養の足りない憐れな自分の姿を此の時程判然りと見た事はありません、處が又幸運なる哉、此れは此の邊の漁師達でした、今しも漁から歸つて來て船を一艘もやしてゐる處でした、匪賊でもなし、船はある、三人ホツトして顔見合はせましたが驚くべきことを発見しました、と云ふのはY君の拳銃は今朝からの雨ですつかり濡れて役に立たなくなつてゐました、T君のは錆ついてゐて之れも駄目、私は前に述べた通りで打ち方を知らない、結局いざとなつたらば三人とも打てなかつた事が分つて肌粟を生ずる思ひでした、夫れより船で渡り、漁師の一人を案内に頼んで煙草に點けるマツチの火も赤々と見える頃〇〇驛に到着、鐵道守備隊分遣隊宿舎に、リュックサックを下ろした時には全く氣が抜けた様に疲労し切つてゐました、纏てP君と別れY君を連れて虎頭に着いたのが夜の十時でした、それから祝盃を重ねたのは御推察通りですが、其の夜P君だけ残つて泊つた〇〇驛近くえ約〇〇名の匪賊が現はれ苦力小屋其の他を襲ひ〇〇を奪ひ苦力も〇名拉致された事件が起り今更午

ら濕地通過が無事に終つた事を洵に天祐であつたと感謝してゐます、濕地の模様も此處に書く事の出来ないのが遺憾ですが、ひどい濕地です丁度最濁水期で本年の最出水期より深さ約二米も減水してゐた項であるに不拘相當なものでしたから最出水期には恐るべき状態であらう事が想像されます、兎に角雨に打たれに上にかゝる處を歩いて、相當冷えもしましたし、出張中の無理もあつて東安に歸りますと其の夜からアミーバ赤痢にやられました、罹らない事を自慢にしてゐましたのに之れで人並みになつたわけです。

× × × ×

省公署開拓廳に居るH君がよく家へ遊びに來ます、お互ひに毎日役所と寝る處——敢て家とは云えない所に住んでゐる人が多いので——とを往復するだけで活動小屋一つあるわけでもなく、撞球場一軒あるわけでもありませんし、散歩に行く様な處も無いのでお互ひに訪問し合ふ機会が多くなります、それに此の六月以來新に東安に赴任した省は全部單身で來て居りますので集つて駄辯つたり一杯やつたりするのが唯一の楽しみです、H君はもと交通部の土木建設處に居た人で東安省の新設と共に赴任して來た人です仲々面白い人で諧謔に富んだ話をします、去年でした私が新京の交通部に居た時、S司長と東部國境方面の道路視察に行きました時、H君の擔當管内を廻つて其の夜は〇〇〇の宿に泊りました、H君も其の夜會食の座に來て居りましたが、S司長が「H君、もう少し道路を良くしないとイケないね」と暗に努力の足らない事を責めた口調で云はれますと、H君即座に曰く「司長！將來有望ですよ、ハ、ハ、」とやつた

ので満座笑ひ崩れて仕舞ひました、沈石の司長も夫れに吊り込まれて叱りも出來ず、詮方なく笑つて仕舞ひましたが、遂ひに講評は夫れで終りました、東安の省公署内でも此の調子でやるんでせう、「H哲學」で通つてゐます。

扱て或日私の家へやつて來た時に、「大石さん、フマクユラーを撒くと、どうして蠅が死ぬか知つてゐますか」と箆から棒の質問です、「そうだね、息が苦くなるんだらう、」私としても今迄そんな事を詮索した事が無かつたので、良い加減な出鱈目返事でした、H君曰く「どうして息が詰るかを聞いてゐるんですよ、僕の研究によると、蠅と云ふ奴は兩方の羽の下に一つ宛の氣孔を有つてゐて、夫れで息をしてゐるんですよ、フマクユラーは一種の油で、夫れを噴霧状態にして空氣中に撒くと、其の中を飛んで居る蠅の身體にその油の微粒が附着する、處が油は表面張力が強いから、例え微粒の一滴でも忽ちの内に蠅の身體全體に廻つて自然氣孔も油の膜で塞いで仕舞ふので奴は動かなくなるんですよ、フマクユラーを發明した奴は仲々頭がいいですが、ハ、ハ、」之れには私も參つて仕舞ひました、仲々該博なものでこつ言つた種類の事をよく聞かして呉れます、其後「Hのフマクユラー」は忽ち有名な活になりました、興凱湖に遊んだ人は誰れでも其の景色の雄大にして絶佳なのに驚かされます、湖岸に滿領の街當壁鎮とソ領の街ツリログとが幅三米位の平常は尻の無い小河——此の小河が湖岸近くの兩國の國境線——で相對してゐますが、その小河を境として滿領だけに湖岸に沿ふて蠅々約二軒に積く赤松が鬱蒼と生ひ茂つてゐます、北滿に松が之れ程澤山一ヶ所に生えてゐるのは洵に珍しい

現象ですが、此の緑の松並木は湖岸の白砂と相俟つて所謂白砂青松、内地の舞子の濱を髣髴させます、東安省否滿洲としての名所に數えられてゐます、最近は國境の緊張で此處にゐるソ聯兵の神經も大分尖鋭振りを發揮してゐます、然し余り國境線に近寄らなければ大丈夫ですので東安に來られるお客さんをよく案内します、一遍は是非見物して置く處でせう、そこで不思議なのは此の松並木です、之れに就ても造詣深いH學説があるんですが永くなりますので止めませう、共の他「苦力冷凍貯藏法」と云ふ奇想天外な新説を最近發表してゐますが此處で述べると人道問題、發禁の厄に遭ふと迷惑しますから之れもお預りにして置きますが仲々愉快です。

× × × ×

扱て九月から來年四月迄、獵が解禁になりましたして今日此項獵銃擔いだ天狗連中を大分見受ける様になりました、獵に於ては此の東安省は全滿に於て有數の恵まれた土地だそうです、東安に來て獵をしないのは寶の山に入つて何とかで馬鹿扱ひをされまじい勢です、私の隣りの省のK次長は釣の名人であり又同時に獵の名人で、御蔭で時々私なども御馳走にありついてゐ

ますが、先日など早朝に出かけて打ちに行かれましたが早や八時頃には雉を五羽ぶら下げて歸つて來られました、全く朝飯前の仕事で、次長に言はせると、今から案ぜられる東安の今年の冬の食糧難は己れの獵で解消して見せると豪語して居られます、雁の時節になりますと、爲めに天日暗しだそうで雁の獵場としては此の土地は世界的にも有名だと聞いてゐます、其の項になると次長は雁を獲つて來て樽に鹽漬けにするんだと言つてゐます、とても美味いとか、偉い勢です、私も一つ始め様と思ひ牡丹江の建設處のS處長のブロー=レグを譲り受け中ですから、總て來たならば次長の食糧難解消運動に参加して大ひに功績を擧げやうと今から腕を撫して待つてゐます、呵々。

昨夜友人S氏が當壁鎮附近で雉を一羽打つたからと云つて持つて來て呉れました、今夜は牡丹江へ出張に行つたH君が私の爲めに將棋盤を買つて歸つて來る筈です、雉の料理も家に居るM君の庖丁で出來ましたから、H君の愉快な話でも亦聞き乍ら雉のすき焼を着に一杯やりませう。(康德六、九、一八、滿洲事變記念日に書き終る)

會員諸氏へ御願ひ

◆轉居、轉任等なされた場合は必ず其の都度御通知下さい。會員名簿の訂正、會誌の發送
其他通信事務會務整理上特に御願ひ致します。

◆機關誌建設原稿募集

論說、研究、資料、隨筆

寫眞………工事寫眞(撮影月日及簡單なる説明を附すること)

以上各種共掲載のものに對しては薄謝を呈します。新京交通部道路司内滿洲土木研究會編輯部宛御送附下さい。